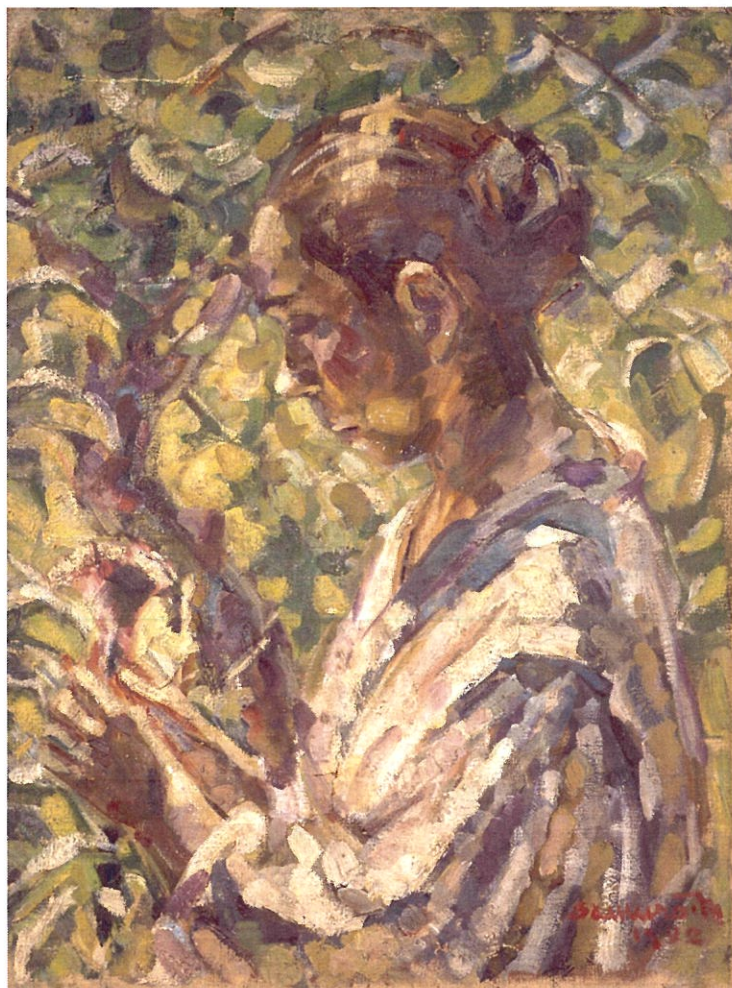


宮本三郎、I 画家として

はじまりから 戦争を経て 1920s-1950s

2021年4月1日|木|—9月26日|日|



《妹・志乃像》 1922年

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum

- 展覧会名 宮本三郎、画家としてI：はじまりから 戦争を経て 1920s-1950s
Miyamoto Saburo Chronicle I：1920s-1950s
- 会 期 2021年4月1日（木）～2021年9月26日（日）
- 会 場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836 www.miyamotosaburo-annex.jp
- 主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館
- 開館時間 10時～18時（最終入館は17時30分まで）
- 休 館 日 毎週月曜日（ただし、5/3[月・祝]、8/9[月・振替休日]、9/20[月・祝]は開館、
5/6[木]、8/10[火]、9/21[火]は休館）
- 観 覧 料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上、中小生100円(80円)、
障害者100円(80円)ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者（当該障害者1名につき1名）
は無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

◆ 宮本三郎、画家として I: はじまりから 戦争を経て 1920s-1950s

2021年度の宮本三郎記念美術館では、洋画家・宮本三郎（1905-1974）の画業を、年間を通して2期に分けてご紹介いたします。

第1部となる本展では、画家としての出発から初の渡欧期の作品、また従軍画家としての仕事や戦後にみつめた故郷の風景までを中心にご紹介します。

- 1905（明治38）年 石川県の小松市松崎町に生まれる
- 1920（大正9）年 旧制小松中学校を中途退学。画家を志し、兄を頼って神戸に出る。
- 1922（大正11）年 上京。川端画学校洋画部に在籍し、藤島武二らの指導を受ける。
- 1927（昭和2）年 安井曾太郎を訪ね、以降、指導を仰ぐ。二科展初入選。以降、さまざまな美術展に出展し入選を重ねる。
- 1928（昭和3）年 結婚。翌年、妻・文枝との間に長女・美音子^{みねこ}が生まれる。
- 1935（昭和10）年 世田谷区奥沢にアトリエ兼住居が完成し転居（当館はその跡地に建設され2004年に開館）。
- 1938（昭和13）年 初めての渡欧。パリではアカデミー・ランソンに在籍し、ルーブル美術館を中心に各地の美術館で模写を重ねる。
- 1939（昭和14）年 第二次世界大戦勃発により、帰国。
- 1942（昭和17）年 陸軍より南方への派遣が決定。以降、作戦記録画の制作に従事。
- 1944（昭和19）年 郷里・石川県小松市に疎開。
- 1945（昭和20）年 終戦後、同県金沢市に転居。翌年から金沢美術工芸大学にて教鞭をとる。
- 1948（昭和23）年 帰京。奥沢のアトリエ兼住居にて制作を続ける。

…続く ※後半となる第2期（2021.10.16-2022.3.13[予定]）もぜひ楽しみに

◆ 宮本三郎（みやもと・さぶろう）について

1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》（1942年）をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 撮影年不詳

宮本三郎、
画家として I
はじまりから 戦争を経て 1920s-1950s

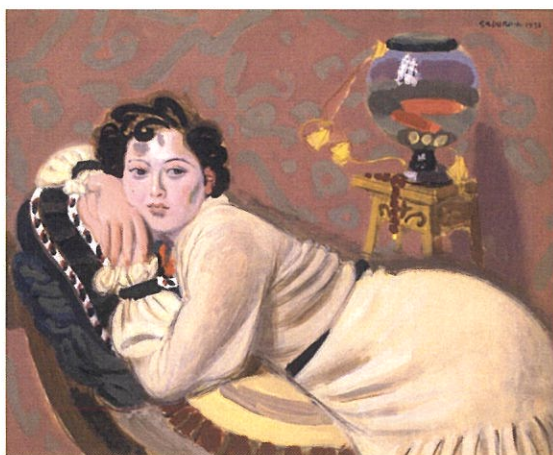
◆ 宮本三郎 作品画像

◆ 各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。※()は題不詳につき仮題



《花と女》1932年

第19回二科会展出品作品のひとつ。同展において、二科会会友に推挙された。



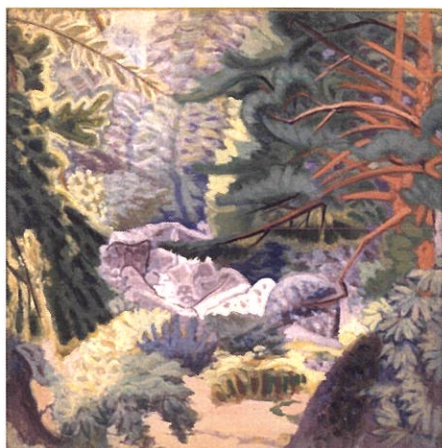
《赤い背景》1938年

奥沢の住居兼アトリエで描かれた。金魚鉢のモチーフがマティスの作品を思わせる。



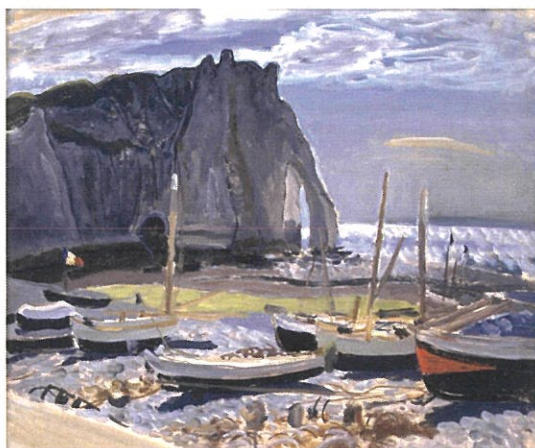
《飢渴》1943年

当館で唯一所蔵する、油彩による戦時中の作戦記録画。



《赤松と溪流》1935年

師と仰いだ安井曾太郎の影響が色濃い風景画。



《エトルタの海》1939年

フランスに滞在中、モネやセザンヌらが繰り返し主題に選んだ名勝の地を描いた。



《妹・志乃像》1922年

妹をモデルにした希少な一作。当館が所蔵するなかで最も若い時期に描かれた、17歳の作品。



《ピアノ》1945～48年頃

穏やかな室内画は故郷への疎開時期、家族をモデルにして多く描かれた。



《死の家族》1950年

1951年1月刊の「アサヒグラフ」誌上で初めて披露した「未発表」作品。自らの戦争を振り返った鎮魂の画といえる。

◆ 宮本三郎記念美術館

◆ 宮本三郎記念美術館について

洋画家・宮本三郎（1905 - 1974）が長きにわたり制作の拠点とした地に、世田谷区が建設した美術館で、2004年4月に世田谷美術館の分館として開館しました。展示室において年2～3回開催する収蔵品展を通じ、宮本三郎の画業を様々な視点からご紹介しています。

◆ 講演会やワークショップ、コンサートなどの開催について

※現在、新型コロナウイルス感染症拡大抑止のためイベント等の開催は休止しております。
イベントの再開が決まりましたら、当館ホームページでお知らせいたします。

[参考] 2019年の活動



人ひろばvol.44
「奥沢・玉川の地域の歴史再発見！第2弾」
(2019年9月8日開催)



子どもとおでかけ美術館
「ふうけいのおはなし会」
(2019年11月16日開催)



ニューイヤー・コンサート
アコルディ弦楽四重奏団
(2019年1月27日開催)

◆ ご来館の際のお願い

※当館では、新型コロナウイルスの感染症対策の実施にともない、お客様にご協力をいただいております。
ご来館の際には、当館ホームページの情報をご確認くださいようお願い申し上げます。

◆ 次回展（予定）のご案内

宮本三郎、画家として II：混沌を貫け、花開く絵筆 1950s-1970s

2021年10月16日（土）～2022年3月13日（日）

洋画家・宮本三郎の画業を、年間を通して2期に分け、その後半部をご紹介します。

◆ 交通案内

東急東横線・大井町線「自由が丘」駅下車／徒歩7分

東急大井町線「九品仏」駅下車／徒歩8分

東急目黒線「奥沢」駅下車／徒歩8分

東急バス（渋11）渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車／徒歩1分

東急バス（園01）千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車／徒歩10分

※当館の来館者用駐車場は、車椅子の方用スペース1台分のみとなります。

◆ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館（広報担当）

Email：miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL：03-5483-3836 FAX：03-3722-5181

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館